

第4回 名護市総合交通ターミナル検討部会

日時：令和7年6月30日（月）

13：00～15：00

場所：名護市民会館中ホール及びWeb

議 事 次 第

1. 開会

2. 議事

- ・ 名護市総合交通ターミナル検討部会委員の変更について
- ・ 第4回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の報告
- ・ 第3回検討部会での主なご意見と対応方針
- ・ 第3回意見聴取結果
- ・ 区域・施設配置計画（案）
- ・ 名護市総合交通ターミナル整備方針（案）
- ・ 名護市総合交通ターミナル整備イメージ（案）
- ・ 今後の進め方

3. 閉会

（配付資料）

- 資料1 名護市総合交通ターミナル検討部会規約
- 資料1 別紙 名護市総合交通ターミナル検討部会委員名簿
- 資料2 議事資料
- 参考資料1 オープンハウスパネル・調査票
- 参考資料2 オープンハウス結果（詳細版）

名護市総合交通ターミナル検討部会 規約

（名称）

第 1 条 本会は、「名護市総合交通ターミナル検討部会」（以下、「部会」という。）と称する。

（目的）

第 2 条 部会は、名護湾沿岸（名護漁港周辺）実施計画を踏まえ、「（仮称）名護市総合交通ターミナル事業計画」策定に向け、計画の具体化を図ることを目的とする。

（審議事項）

第 3 条 部会は、第 2 条の目的を達成するため、以下の事項について検討を行う。

- （１） 事業計画に係る検討
- （２） その他、第 2 条の目的を達成するために必要な事項

（組織）

第 4 条 部会は、第 2 条の目的を達成するため、有識者、交通関係者、各行政機関をもって組織し、構成は別紙委員名簿のとおりとする。

- 2 有識者、交通関係者、各行政機関の追加・変更は、部会の承認を得るものとする。
- 3 任期は、事業計画の策定が完了するまでとする。
- 4 交通関係者、各行政機関関係者において、やむを得ない事情により部会に出席できないときは、代理者を出席させることができる。

（部会の成立条件）

第 5 条 部会は有識者のうち原則 2 名以上の出席がなければ開催することができない。
ただし、やむを得ず 2 名以上有識者の出席ができない場合は、有識者の了承を得た上、事前説明を行うことを以て部会の成立とみなすことができる。

（部会長）

第 6 条 部会には部会長を置き、部会メンバーの互選によりこれを定める。

- 2 部会長は、部会メンバーを代表して、会務を総括する。
- 3 部会長が出席できない場合は、部会長が予め指名した者がその職務を代行する。
- 4 部会長は、必要があると認めたとき、部会に構成員以外の者の出席を求め、そ

の意見を聞くことができる。

(部会の運営)

第7条 部会は、第3条に規定する事項を審議するため、必要に応じ、事務局が招集する。

2 部会は、運営にあたり必要な資料等を部会メンバーに求めることができる。

3 部会における検討内容については、「名護市中心市街地まちづくり推進協議会」に報告する。

(守秘義務)

第8条 各部会メンバーは、個人情報など公開することが望ましくない情報を漏らしてはならない。また、その職を退いた後も同様とする。

(部会の公開について)

第9条 この部会の審議は原則公開で行うものとする。なお、非公開とする必要がある場合には、部会の承認をもって行うものとする。

(規約の変更)

第10条 本規約の改正等は、出席する部会メンバーの過半数以上の賛同をもって行うことができるものとする。

(事務局)

第11条 部会の運営に関わる事務を行わせるため、事務局を置くものとする。

2 事務局は、名護市建設部まちなか再開発・公共交通課および内閣府沖縄総合事務局北部国道事務所調査課に置くものとする。

(雑則)

第12条 本規約に定めるものの他、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において別に定める。

附則

(施行期日)

この規約は、令和6年7月9日から施行する。

一部改正 令和6年11月12日（委員名簿の追加・変更）

一部改正 令和7年6月30日（委員名簿の変更）

名護市総合交通ターミナル検討部会
委員名簿（案）（順不同）

有識者	琉球大学工学部 教授	かみや だいすけ 神谷 大介
	東京大学大学院工学系研究科（工学部）教授	はとう えいじ 羽藤 英二
	名桜大学 副学長	はやし ゆうこ 林 優子
	名護市観光協会 理事長	まえだ ひろこ 前田 裕子
交通関係者	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会 事務局長	つはこ おさむ 津波古 修
	一般社団法人沖縄県バス協会 専務理事	けいだ よしはる 慶田 佳春
	一般社団法人 沖縄県レンタカー協会 会長	しらいし たけひろ 白石 武博
	株式会社琉球バス交通 代表取締役	おがわ ごきち 小川 吾吉
	那覇バス株式会社 副社長	か げ けんぞう 鹿毛 建造
	沖縄バス株式会社 代表取締役	あらかわ みきお 新川 幹雄
	東陽バス株式会社 運輸部 部長	ひ が よしなお 比嘉 良尚
	合同会社やんばる急行バス	やた が い さとる 谷田貝 哲
	株式会社北部観光バス 常務取締役	みやぎ あつし 宮城 敦
	株式会社丸金交通 代表取締役	うんてん けん 運天 健
	合資会社北部観光タクシー 代表	こじょう ひで み 湖城 秀貴
	第一マリンサービス株式会社 代表取締役	おだ のりふみ 小田 典史

行政	沖縄県警察本部 交通部 交通規制課長	ありはま 東濱 たかひろ 貴大
	沖縄県名護警察署長	おきた 沖田 のぶひこ 暢彦
	沖縄総合事務局 運輸部 企画室長	かめたに 亀谷 まさや 匡哉
	沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官	せき 関 のぶお 信郎
	沖縄総合事務局 北部国道事務所長	やが 屋我 なおき 直樹
	沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課長	いげい 伊藝 せいちろう 誠一郎
	沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課長	くば 久場 かねはる 兼治
	沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課長	しもじ 下地 ひでき 英輝
	沖縄県 北部土木事務所 技術総括	おおやま 大山 たけし 豪
	沖縄県 企画部 交通政策課 公共交通推進室長	なかよし 仲吉 ともなお 朝尚
	沖縄県 北部農林水産振興センター 農業水産整備課長	おおしろ 大城 あつし 厚司
	名護市 建設部長	きしもと 岸本 ひろふみ 啓史
事務局	名護市建設部まちなか再開発・公共交通課	
	内閣府沖縄総合事務局北部国道事務所調査課	

第4回 名護市総合交通ターミナル検討部会

1. 第4回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の報告
2. 第3回検討部会での主なご意見と対応方針
3. 第3回意見聴取結果
4. 区域・施設配置計画（案）
5. 名護市総合交通ターミナル整備方針（案）
6. 名護市総合交通ターミナル整備イメージ（案）
7. 今後の進め方

令和7年6月30日

1. 第4回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の報告

1.開催概要

- 日時：** 令和7年2月13日(木) 14時～16時
- 会場：** 名護市屋部支所会議室（沖縄県名護市屋部4-2-2）※WEB併用
- 主な内容：** 名護市中心市街地のまちづくりの方向性の共有
-住民ワークショップや高校生アンケート、実証実験等の結果の報告
-第3回協議会でのご意見を踏まえたまちづくりのコンセプト・ゾーニング等の共有
-災害発生時のイメージ、ターミナルの整備イメージの共有
- 委員：** 琉球大学工学部 准教授 神谷 大介 氏
沖縄大学地域研究所 特別研究員 島田 勝也 氏（欠席）
名桜大学国際学群 上級准教授 伊良皆 啓 氏
- 関係機関：** 内閣府沖縄総合事務局
運輸部企画室長、運輸部陸上交通課長、北部国道事務所副所長、開発建設部建設産業・地方整備課長
沖縄県
土木建築部北部土木事務所技術総括、企画部交通政策課長、土木建築部都市計画・モノレール課長、
北部農林水産振興センター所長
名護警察署交通課長、 沖縄振興開発金融公庫北部支店長、
名護漁業協同組合代表理事、 名護市観光協会理事長、
名護市商工会会長、 中心市街地関係各区（城、港、大中、大東）区長、
名護十字路商店連合会会長

2.主な意見

■配置例①

（交通機能を両側に概ね均等に配置した例）



■配置例②

（交通機能を市街地側メインに配置した例）



【区域・施設配置に関する意見】

- ・ **配置例②の方が交流等機能や交通機能が充実できるものと期待。**
- ・ 防災機能が海側に配置される計画は避けるべきである。

【交通機能に関する意見】

- ・ **利用者にとって行き先と乗り場がわかりやすい整備にして欲しい。**
- ・ 公共交通を利用した観光の需要が高くなることが考えられ、バスの利便性をどう図るかが重要。
- ・ 歩行者デッキについては、幅員を広くとる、雨に濡れないようにする等の工夫を検討いただきたい。

【防災機能に関する意見】

- ・ **平常時は展望台、災害時は一時避難場所として機能する施設**（名護タワー等）を整備してはどうか。
- ・ 名護市における津波の到達時間は20分と想定されており、20分の間に相当量の人が避難してくることが予想される。**避難人数を踏まえて、施設規模を検討いただきたい。**
- ・ 防災については、**地域防災計画等の全体計画の中での位置付けを整理するべき。**

【交流等機能に関する意見】

- ・ 立ち寄り場所とするのか、宿泊場所とするのか、市民向けなのか、観光客向けなのか、ターゲットによって必要な施設が異なる。**ターゲットを整理した上で検討する必要がある。**
- ・ 名護で降りて、**まちに繰り出そうと思うような目的地化が重要。**
- ・ **アーバンデザインセンター**のように、行政主導だけではない形も視野に入れながら、現段階からまちのコンセプトを話し合う場や、試行的に空間を使う活動等ができる組織体ができると良い。

【その他意見】

- ・ 現状の人の流れや使われ方を把握した上で、今後のまちの方向性を検討するべきである。
- ・ バリアフリーやインクルーシブには留意して検討を進めてほしい。



2. 第3回検討部会での主なご意見と対応方針

2. 第3回検討部会での主なご意見と対応方針

(開催：R7.1.15)

分類	第3回検討部会での主なご意見	対応方針
中心市街地のまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> 交通結節点やシンボルロードの整備は名護の発展の好機であり、<u>来訪者が滞在したくなる仕掛けが必要</u>。名護十字路からひんぱんガジュマルまで歩行者天国化し、賑わいを創出する案もある。 シンボルロードの記載はあるが、ウォカブルな印象が薄い。歩行者が楽しめるよう、<u>幅員構成や舗装の工夫</u>が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の報告にて、対応方針を説明（名護市）。
総合交通ターミナルに関する検討の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> 超高齢化社会を見据え、<u>高齢者の意見を取り入れることも重要</u>。 計画段階から<u>交通事業者に分かりやすい説明</u>が重要。 <u>名護の未来を描けるようなパス</u>や、<u>バス動線のシミュレーション</u>の提示を希望。 <u>バスの具体的な通行ルート</u>を示し、従来のバス路線やコミュニティバスの変更点を明確にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンハウスにおいて高齢の方を含む市民・来訪者の意見を収集。 バス事業者と複数回の意見交換を通して施設配置のイメージを共有し、計画に反映。 交通ターミナルの具体的な施設配置イメージ図を作成。 イメージ図にて、方面別のバスの出入り動線を明示。 ※具体的なバス路線網については別途「地域公共交通協議会」等で協議が必要。
総合交通ターミナルの機能について	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスについて、<u>国頭方面への増便が総合交通ターミナル整備とともに可能か</u>検討が必要。 名護バスは<u>防災拠点や観光拠点として重要な役割</u>を担い、<u>駐車機能や滞在機能、トイレ整備等</u>が重要。 <u>名護らしさを生かした海側の一体的デザイン</u>も重要。 <u>バスタやシンボルロードの一体的なマネジメントを行う機能（デザインセンター）</u>が求められる。 旅行者が多い地域特性を踏まえ、<u>スーツケースを持った移動者への配慮も今後の検討に必要</u>。 防災に関しては、<u>被災後の対応と県の計画との関連性</u>を示すことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来的な増便等にもある程度余裕を持って対応するため、設計上確保可能なバス数を検討し計画。※運用面は今後の調整事項。 交通・防災・交流等機能の配置を計画図面に反映。 ※具体的な施設配置は今後の調整事項。 交流・防災の両機能を担う津波避難施設の事例を紹介し、今後の参考にする。 アーバンデザインセンターの事例を紹介。 歩行者動線は、利用者の特性を配慮し、歩道やデッキを検討する。 引き続き検討する。

3. 第3回意見聴取結果

■ 調査概要

- 名護市総合交通ターミナルの計画深度化にあたりイオン名護店・名護市営市場・道の駅許田でオープンハウスを開催。

目的	<ul style="list-style-type: none">これまで関係者間で検討してきた名護市総合交通ターミナルについて、地域課題や整備の必要性、具備すべき機能、ゾーニング等について、幅広く市民（又は来訪者）の立場からご意見を伺う。事業推進の観点から、当計画を地域に広く広報することで、地元機運の醸成を図る。
対象	<ul style="list-style-type: none">名護市民、北部地域在住者、観光・ビジネス客 等
日時・場所	<ul style="list-style-type: none">①道の駅許田 1月25日（土）13：00～16：00②名護市営市場 1月25日（土）13：00～16：00③イオン名護店 2月1日（土）13：00～16：00
意見聴取内容	<ul style="list-style-type: none">1)地域の課題2)名護市総合交通ターミナルの整備の必要性3)名護市総合交通ターミナルに具備すべき機能4)ゾーニング案について5)整備にあたっての留意事項
実施方法	上記①②③の3会場にパネルを設置しご覧いただくとともに、来訪者に対し直接説明後、アンケート調査を行った。
回答数	<ul style="list-style-type: none">道の駅許田（23件）名護市営市場（66件）イオン名護店（26件） 合計115件



図3.1 オープンハウスの実施箇所位置図



①道の駅許田

②名護市営市場

③イオン名護店

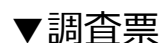
図3.2 オープンハウスの実施箇所

第4回 名護市総合交通ターミナル検討部会

▼パネル



※その場での回答が難しい方へ配布



3. 第3回意見聴取結果

第4回 名護市総合交通ターミナル検討部会

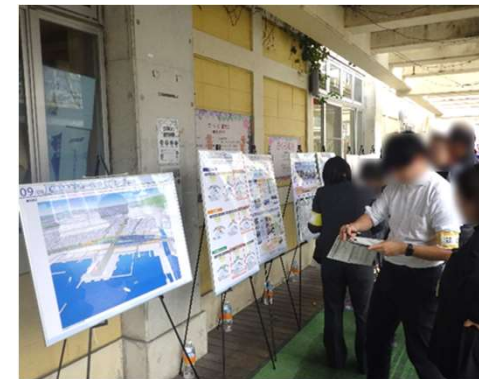
■道の駅許田 1月25日（土）

回答数：23件



■名護市営市場 1月25日（土）

回答数：66件



■イオン名護店 2月1日（土）

回答数：26件



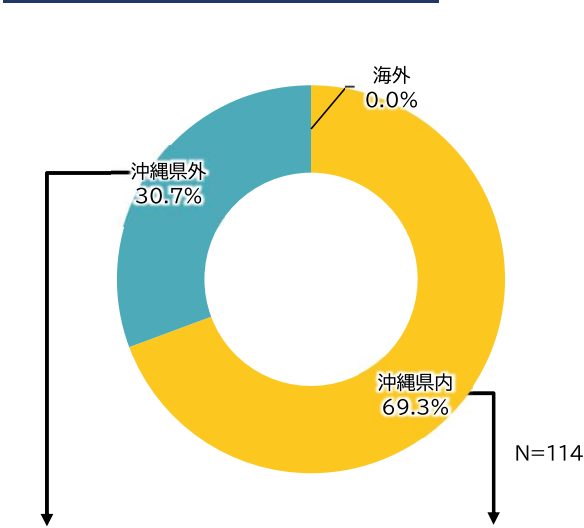
■ 調査結果

0. 回答者属性について

※Nは有効回答数

20歳未満から80歳以上、沖縄県内（名護市在住の方53名を含む）、沖縄県外からの来訪者、幅広い層からの回答を得た。

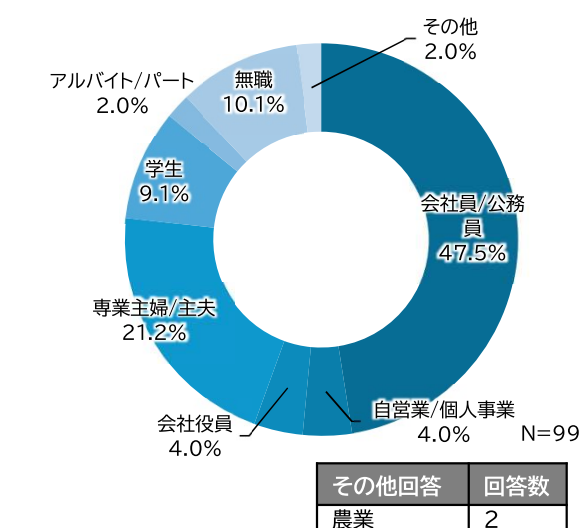
現在のお住まい(単一回答)



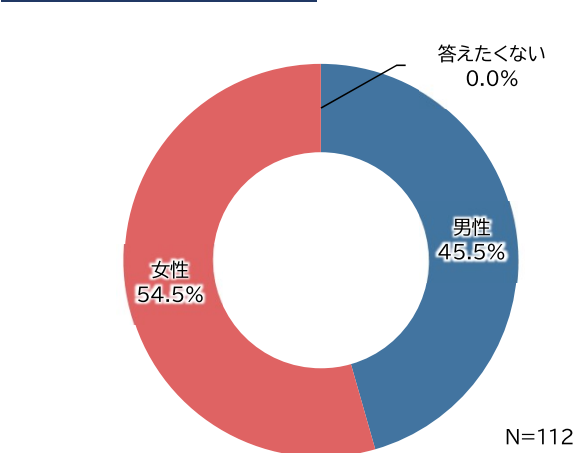
居住地	回答数
大阪府	7
千葉県	4
岩手県	3
福岡県	2
東京都	2
神奈川県	1
広島県	1
埼玉県	1
香川県	1
京都府	1
北海道	1

居住地	回答数
名護市	53
那覇市	4
今帰仁村	4
糸満市	3
うるま市	2
浦添市	2
読谷村	2
大宜味村	2
宜野湾市	1
南風原町	1
恩納村	1
本部町	1
中城村	1
沖縄市	1
与那原町	1

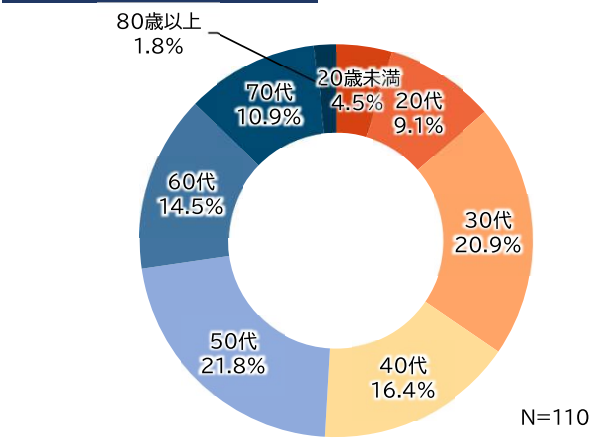
ご職業(単一回答)



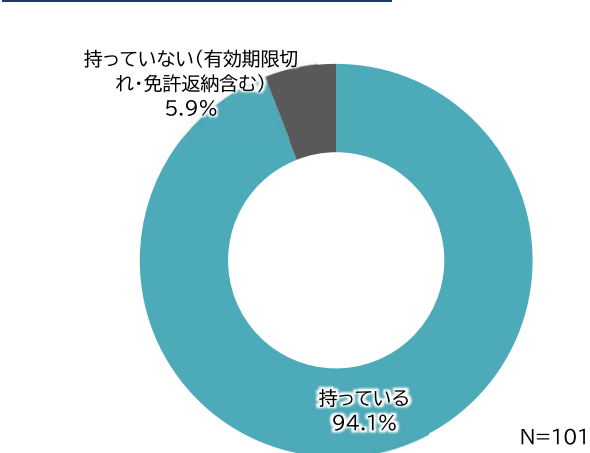
性別(単一回答)



ご年齢(単一回答)



自動車運転免許の有無



■ 調査結果

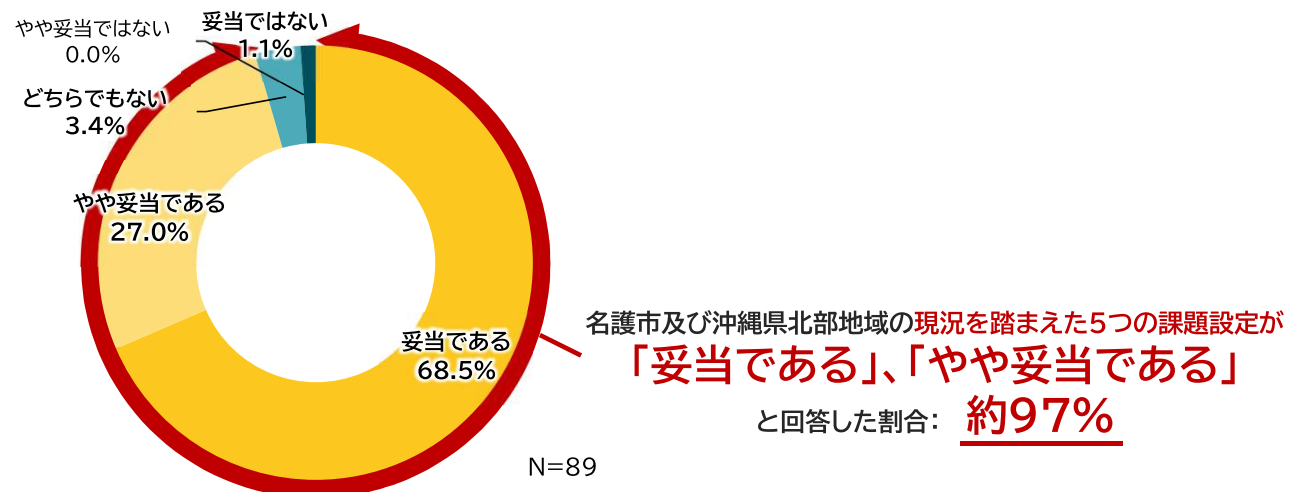
1. 地域の課題について

※Nは有効回答数

約97%が「名護市及び沖縄県北部地域の現況を踏まえた**5つの課題設定が妥当**」と回答。

1-1 名護市及び沖縄県北部地域の現況を踏まえ、課題①～課題⑤まで、5つの課題を設定しました。
この課題設定の妥当性について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。（単一回答）

課題①	課題②	課題③	課題④	課題⑤
北部地域における公共交通（バス等）の利便性の低さ	自動車交通への依存	名護市中心市街地の活力低下	国道58号を含む周辺道路の安全性・円滑性の低下	災害に備えた防災機能強化の必要性
 ▲名護バスターミナルでのバス待ちの状況	 ▲泊・泊ふ頭入口（那覇市）の渋滞	 ▲中心市街地での空き店舗（空洞化）	 ▲中心市街地における道路上でのバス乗降	 ▲災害支援拠点としての役割（資材等の待機空間）



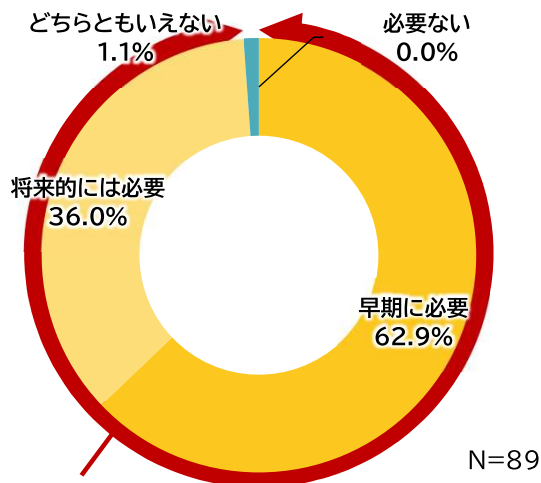
■ 調査結果

2. 名護市総合交通ターミナルの整備の必要性と基本目標の設定について

※Nは有効回答数

約98%が新たな総合交通ターミナルの**整備が必要**と回答。
約97%が**5つの基本目標が妥当**と回答。

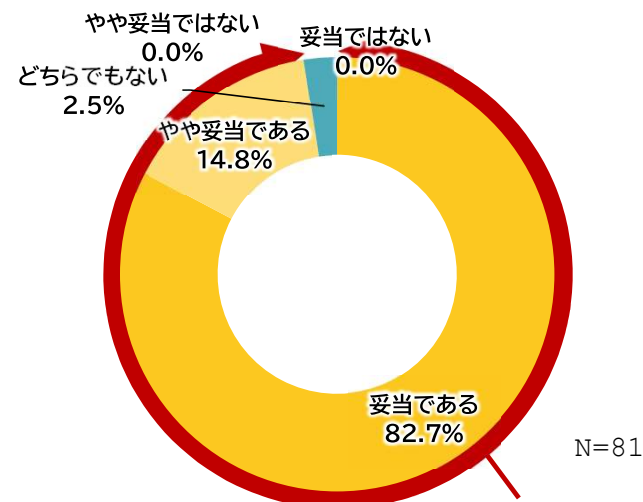
2-1 先述した課題を解決するための1つとして、名護市における新たな交通ターミナルの整備について調査・検討をしています。新たな総合交通ターミナルの必要性について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。（単一回答）



新たな総合交通ターミナルが必要
 であると回答した割合: **約98%**

2-2 地域の課題解決に向け、5つの基本目標を設定しました。この基本目標の妥当性について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。（単一回答）

- 基本目標①** 円滑で快適な市街地アクセス・公共交通利用を実現する交通拠点の整備
☐ 乗り場等の集約 ☐ 公共交通の利便性向上 ☐ シームレスな乗換 ☐ バリアフリー
☐ 快適な待合空間 ☐ 公共交通利用環境の改善
- 基本目標②** 公共交通の利便性向上による自家用車からの利用転換の促進
☐ 公共交通の利用促進 ☐ シームレスに接続する多様な交通手段の選択肢を提供
☐ 誰もが安心して移動できる環境 ☐ 担い手不足への対応
- 基本目標③** まちづくりと一体となった拠点形成による回遊促進・賑わいの創出
☐ やんばるの玄関口 ☐ 賑わい拠点の創出 ☐ 接続性・回遊性向上 ☐ 回遊を促す情報発信
- 基本目標④** 名護市総合交通ターミナル周辺道路の安全性・円滑性の確保
☐ 安全性・円滑性の確保 ☐ 観光シーズンの道路混雑緩和
- 基本目標⑤** 防災機能の向上
☐ 防災拠点としての機能向上



地域課題解決に向けた5つの基本目標が
「妥当である」、「やや妥当である」
 と回答した割合: **約97%**

■調査結果

3. 新たな総合交通ターミナルに具備すべき機能について

※Nは有効回答数

約97%が交通・防災・交流等の各機能が**妥当**と回答。

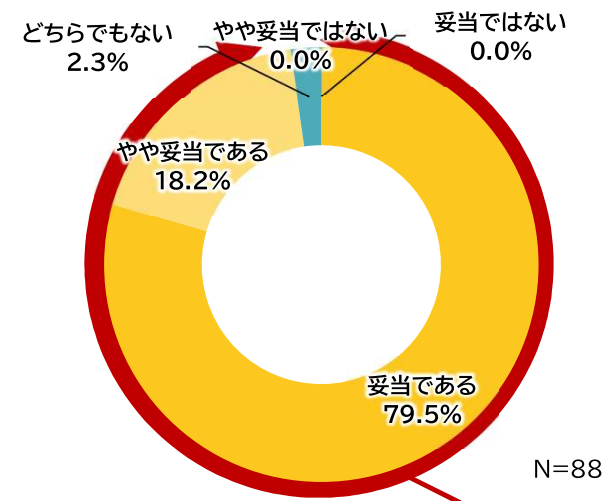
3-1 基本目標の達成に向け、新たな総合交通ターミナルに具備すべき機能・サービスを検討しています。これらの妥当性について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。（単一回答）

①具備すべき機能(案)



②名護市総合交通ターミナルにおいて提供されるサービス

※整備内容について決定したものではありません。今後、関係者等との協議を通じ更なる具体化を図り決定します。



新たな総合交通ターミナルに具備すべき機能・サービスが「妥当である」、「やや妥当である」と回答した割合: **約97%**

■ 調査結果

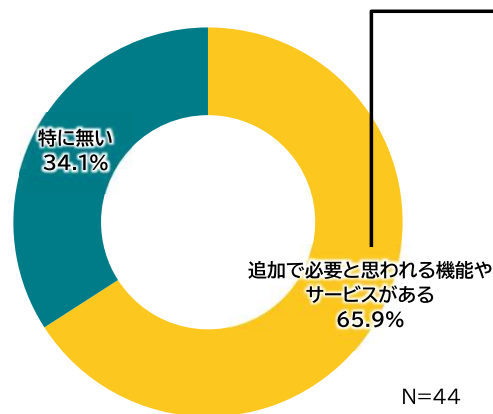
3. 新たな総合交通ターミナルに具備すべき機能について

※Nは有効回答数

交通機能、交流等機能に関するコメントが多く、**防災機能は津波**に対するコメントがあった。

3-2 名護漁港周辺に新たな総合交通ターミナルを整備するにあたり、パネルに掲示しているサービス・機能以外であなたが必要と思われる機能や施設は何ですか。

<自由意見（主な意見）>



① 具備すべき機能(案)



② 名護市総合交通ターミナルにおいて提供されるサービス

※整備内容について決定したものではありません。今後、関係者等との協議を通じ更なる具体化を図り決定します。



交通機能	【交通手段】
	1. 乗り合いタクシー(中城村の取り組み) 2. 周辺施設をまわるバス・レンタカー 3. 船も使えると良い
交通機能	【バス関連施設】
	4. バスの乗り継ぎ案内の充実 5. チケット売場の集約 6. 運転手の休憩室を整備して欲しい
交通機能	【駐車場】
	7. 駐車場が少ないため、増やして欲しい 8. イベント時の駐車場スペース(ハーリー大会・さくら祭り)
交通機能	【設計時の留意点】
	9. 歩道橋やデッキは植栽や屋根を必ずつけて欲しい 10. 高齢者が使いやすいように立体横断施設にはエレベーターをつけてほしい 11. 荷物の移動の利便性(ロッカー、エレベーター)
防災機能	12. 津波から避難できること
交流等機能	13. トイレ、コンビニ、フードコート
	14. 食事が出来ると良い
	15. 漁港の魚市場、飲食施設
	16. 物産品を買えるところ
	17. 道の駅許田のように店舗がほしい
	18. 買い物を楽しめるような施設があると良い
	19. やんばる全体の拠点として機能することが重要
	20. 北部地域の観光案内所
	21. 簡易宿泊施設(カプセルホテル的なもの)
	22. 外国人向けのインフォメーションサービス等
	23. 荷物を預けられる施設
	24. レクリエーション施設子供が楽しめる施設、キッズスペース
	25. 名護湾を見渡せる施設がよい
	26. 今の市営市場などの施設を残しつつ使いやすい施設がよい

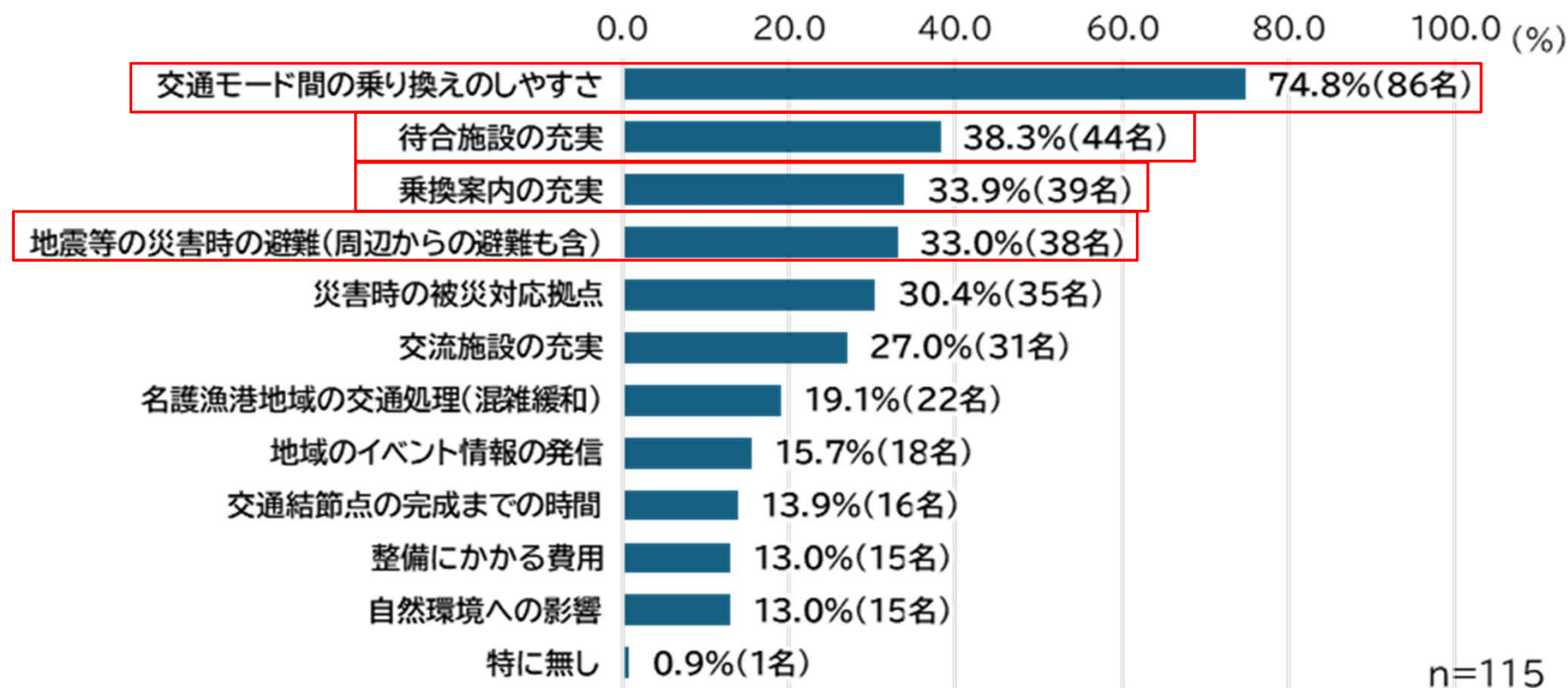
■ 調査結果

3. 新たな総合交通ターミナルに具備すべき機能について

※Nは有効回答数

「交通モード間の乗り換えのしやすさ」が約75%と多く、「待合施設・乗換案内の充実」、「地震等の災害時の避難」などの意見も多数。

3-3 名護市における新たな総合交通ターミナルを整備するうえで、重要と考える点は何ですか。（複数可）



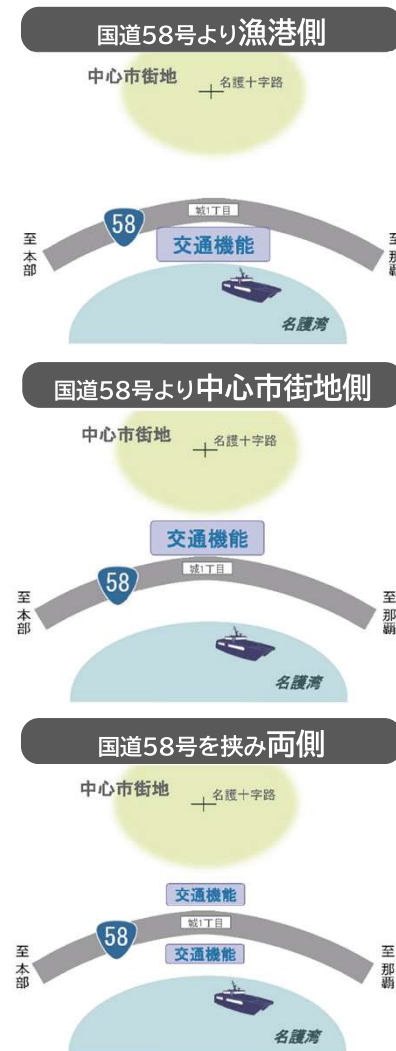
■ 調査結果

4. ゾーニング案について

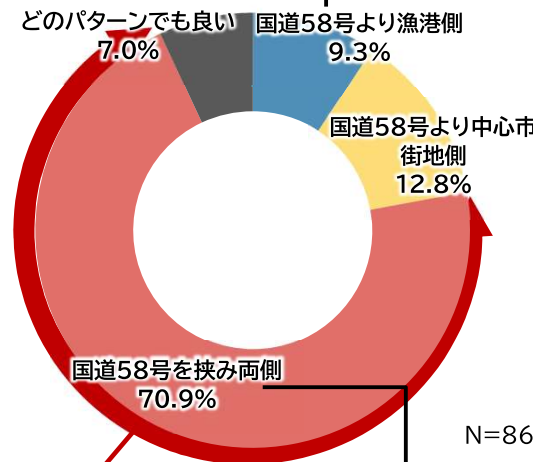
※Nは有効回答数

交通機能の配置は、**約70%**が「国道58号を挟み**両側**」。

4-1 新たな総合交通ターミナルの整備にあたり、【交通機能の配置】について、あなたのご意見に最も合うものをお答えください。



交通機能について：**約70%**
「**国道58号を挟み両側**」



主な意見

- 片側がよい。上下の移動が不便に感じる。
- どちらかに寄せた方がよい。国道58号に来る渋滞が懸念。船との連携。

主な意見

- 道の駅許田が片側で利用しづらい。梅田駅のバスタが参考になる。
- 片方に集中した方がよい。

主な意見

- 周辺道路の混雑が激しいため。
- 漁港側から市街地側へ移動しないといけないのは大変。
- バスが上下方向に走っていることを考えると、両側が良い。
- 利便性が高まる。

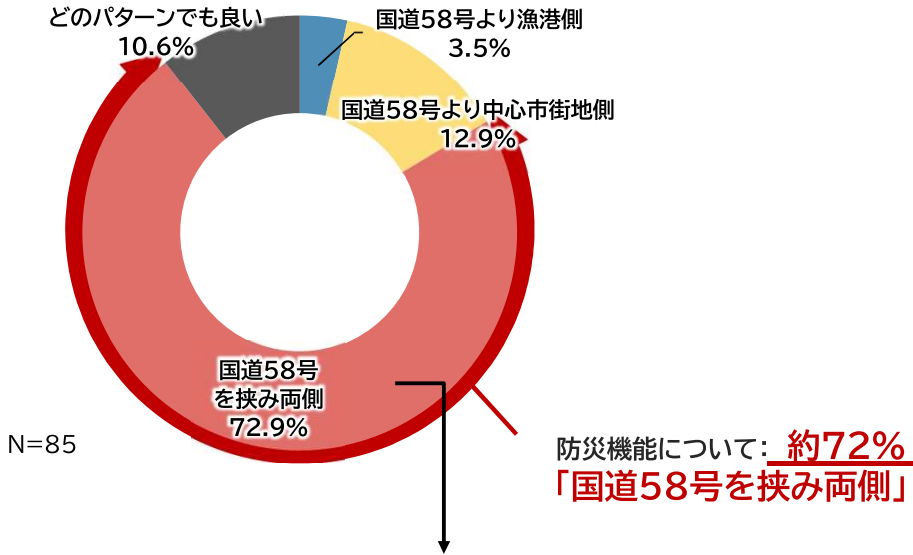
■ 調査結果

4. ゾーニング案について

※Nは有効回答数

防災機能の配置は、約72%が「国道58号を挟み両側」。

4-2 新たな総合交通ターミナルの整備にあたり、【防災機能の配置】について、あなたのご意見に最も合うものをお答えください。



主な意見
・ 利便性が高まる。
・ 海だと危ないかも。
・ どちらかがダメになった場合を考えると、両側が良い。
・ 漁港関係者が津波が発生した際に、避難できるため。

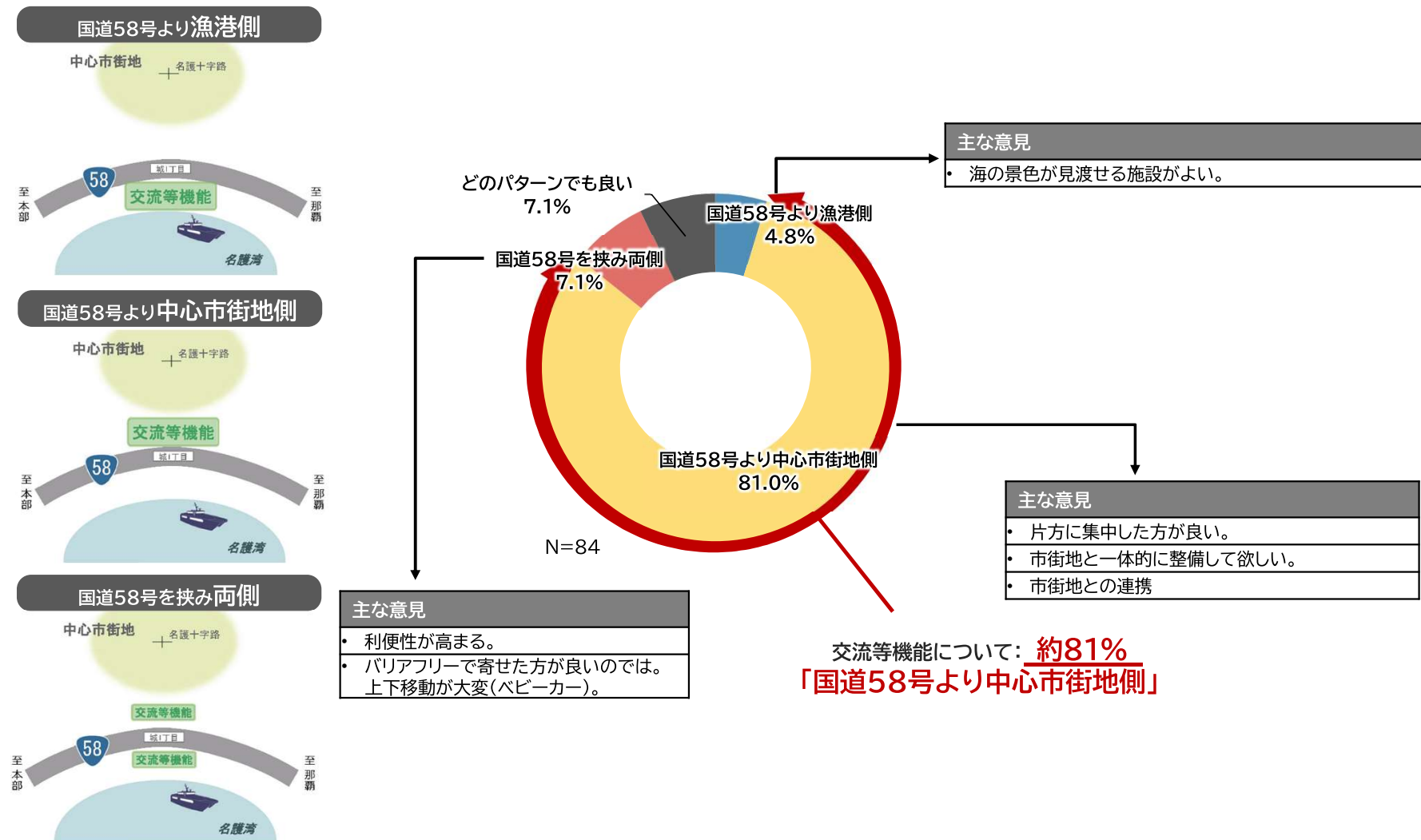
■ 調査結果

4. ゾーニング案について

※Nは有効回答数

交流等機能の配置は、**約81%**が「**国道58号より中心市街地側**」。

4-3 新たな総合交通ターミナルの整備にあたり、【交流等機能の配置】について、あなたのご意見に最も合うものをお答えください。



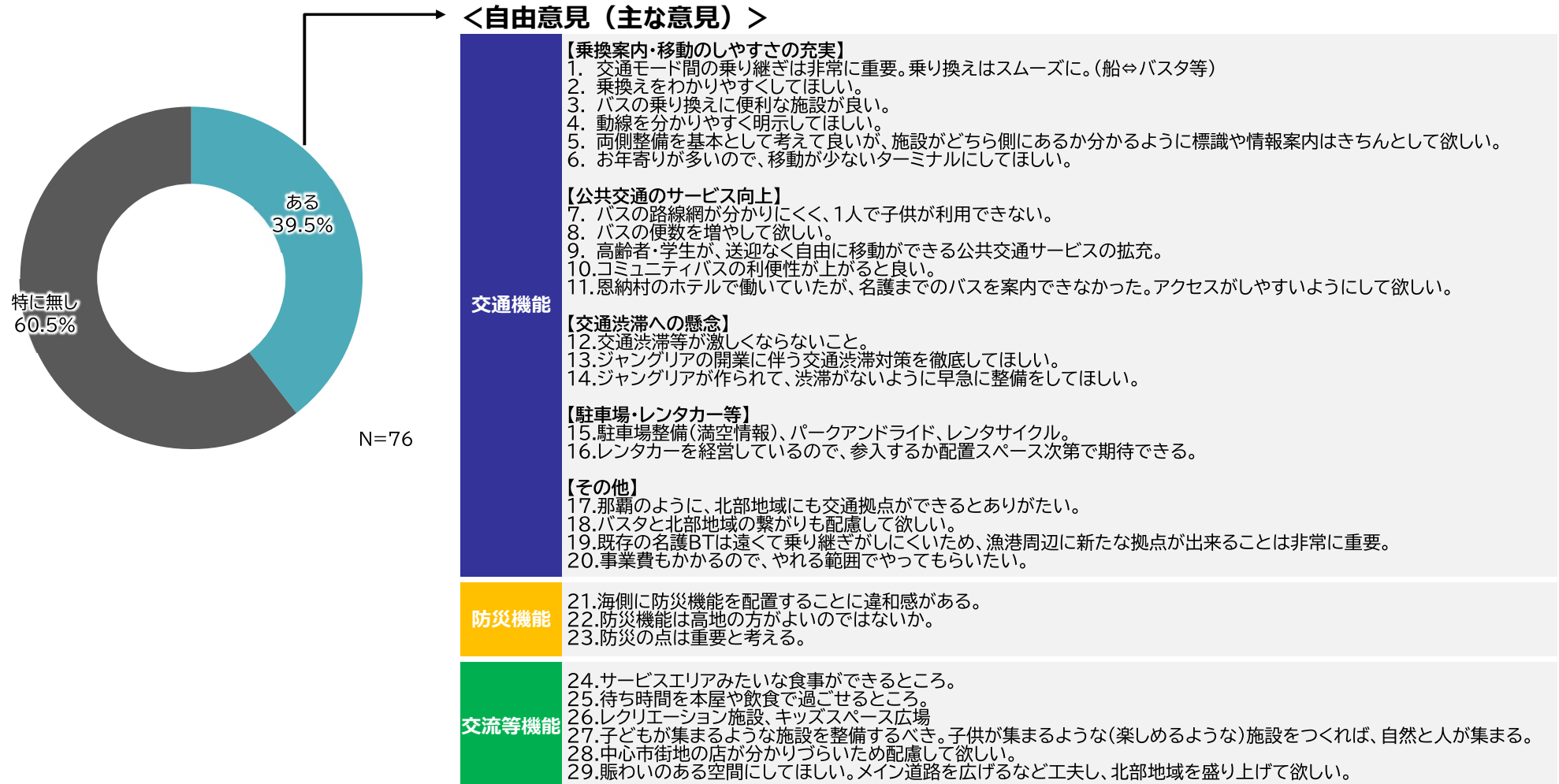
■ 調査結果

5. 特に配慮すべき事項について

※Nは有効回答数

交通機能に関する内容が多く、乗換案内・移動のしやすさの充実、公共交通のサービス向上、交通渋滞への懸念等のコメント。

5-1 新たな総合交通ターミナルの整備にあたり、特に配慮すべき事項等がありましたら、お答えください。（単一回答）



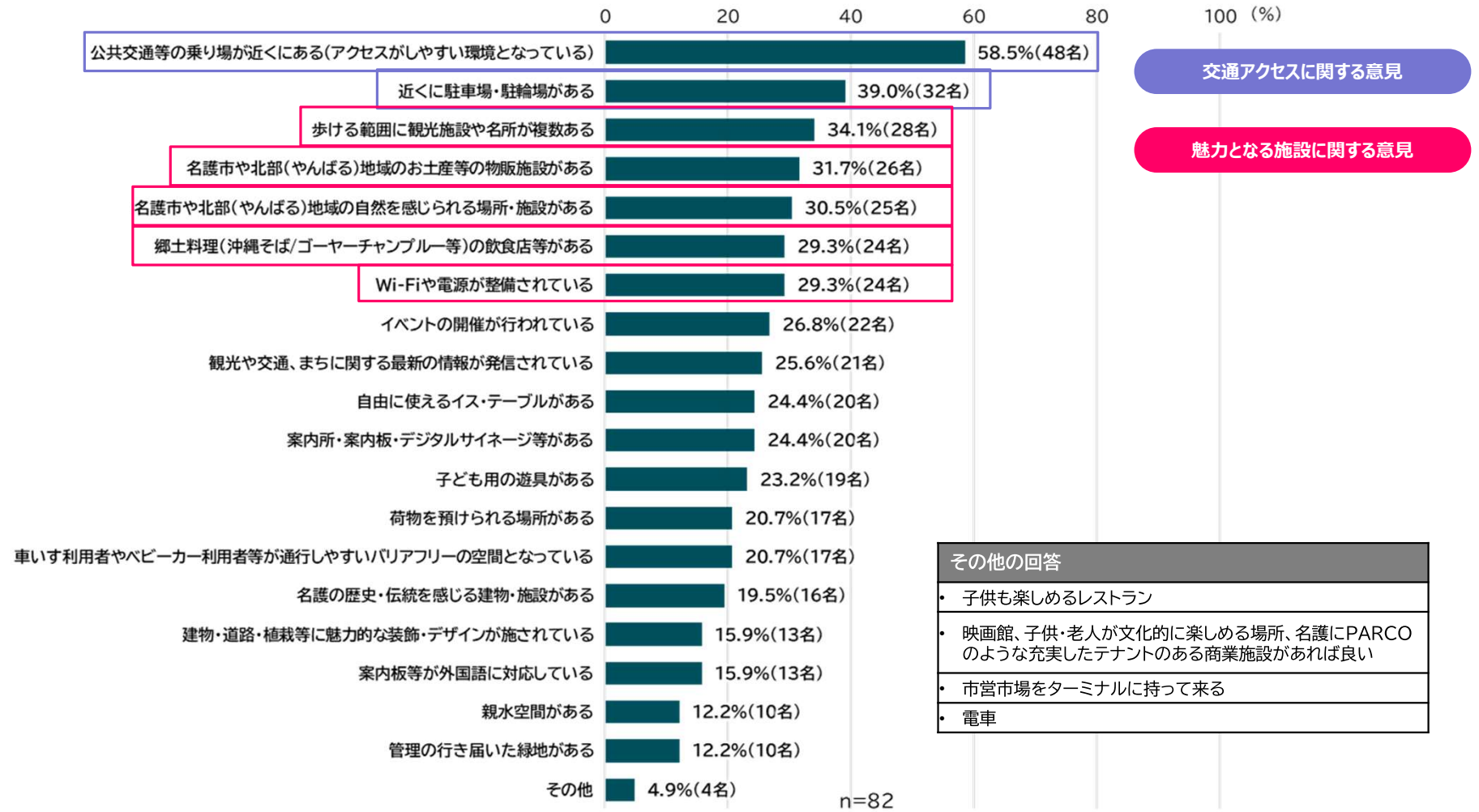
■ 調査結果

6. 名護市中心市街地エリアでの滞在について

※Nは有効回答数

「公共交通等の乗り場」「駐車場・駐輪場」といった**交通アクセスの利便性**に加えて、「歩ける範囲に観光施設や名所が複数あること」「お土産等の物販施設」といった**魅力となる施設**に関するコメントがあった。

6-1 名護漁港および名護市中心市街地周辺で、あなたがより滞在したくなる（又は、来訪したくなる）施設等について教えてください。（複数可）



■ 調査結果まとめ

名護市総合交通ターミナルの 必要性

地域課題の解決に向け、
新たな総合交通ターミナルが必要
であることを確認

地域の課題/基本目標の設定

課題・目標設定は概ね妥当

円滑・快適 な市街地 アクセス	公共交通 の利便性 向上	まちづくりと 一体的な 拠点形成	周辺道路 の安全性・ 円滑性の 確保	防災機能 の向上
-----------------------	--------------------	------------------------	-----------------------------	-------------

総合交通ターミナルに具備すべき機能

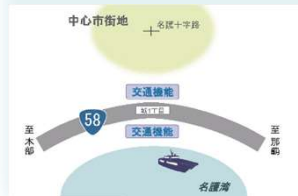
交通モード間の乗り換えのしやすさ
待合施設の充実
乗換案内の充実
地震等の災害時の避難

...等

ゾーニング案

国道58号に対する機能配置のパターンに関して意見を確認

交通機能：両側



防災機能：両側



交流等機能：市街地側



中心市街地エリアでの滞在

市街地での滞在に向けたポイントを確認

市街地への交通アクセス

魅力となる施設の存在

...等

関係者間でこれまで検討した内容について、地域住民や来訪者からも“妥当である”ことを確認
意見・要望も踏まえ、名護市総合交通ターミナルの事業の具体化を図る

4. 区域・施設配置計画(案)

4. 区域・施設配置計画(案)

4.1 機能・施設

- 基本目標の実現に向けて、「交通機能」「防災機能」「交流等機能」それぞれの方針を整理し、具体的な施設を検討。

基本目標

①円滑で快適な市街地
アクセス・公共交通利用を
実現する交通拠点の整備

②名護市総合交通ターミナル
周辺道路の安全性・円滑性
の確保

③公共交通の利便性向上
による自家用車からの
利用転換の促進

④まちづくりと一体となった
拠点形成による
回遊促進・賑わいの創出

⑤防災機能の向上

交通機能

快適な公共 交通利用環境

- 市民・来訪者、**交通事業者**が障壁なく快適に公共交通を利用、**運行**できる環境を構築

公共交通の 階層的な連携

- 広域公共交通（高速バス・高速船）と地域の公共交通（路線バス・コミュニティバス・タクシー等）を**シームレス**に接続し、北部地域全体の交通拠点としての機能を拡充

モーダルコネクト の推進

- シェアサイクル、カーシェア等、様々な交通モードと接続し、多様な移動ニーズに対応

防災機能

広域防災機能 の強化

- 発災直後の一時的な避難場所や**広域的な災害復旧拠点**（**災害対応車両の駐車**、ボランティアの**受入機能**等）としての活用を想定

地域と連携した 避難手段・ 場所の確保

- 対象地は浸水危険度が高いため、安全なエリアへ避難できる手段を確保
- 長期滞在が必要な場合は、周辺の避難所等と連携する

フェーズフリー の実現

- 平常時の施設を災害時にも有効活用（フェーズフリー）できるよう、効果の最大化を実現

交流等機能（賑わい機能など）

まちづくりと 一体となった 拠点形成

- 名護市で検討中の中心市街地活性化施策と連動し、一体的な拠点形成を目指す

やんばるの玄関 口にふさわしい 上質な空間

- 名護市及びやんばるの玄関口として、地域の魅力を生かした景観・空間を実現

拠点を核とした 情報発信・交流 の促進

- 交通拠点を核として、市民をはじめとする北部地域全体と来街者の交流を促進させる

基本機能



交通結節 機能



防災機能



サービス機能 景観機能



地域の拠点 賑わい機能



4. 区域・施設配置計画(案)

4.1 機能・施設

- 交通機能・交流等機能については、**利用者利便や周辺まちづくりとの連携**に配慮し、効果的な配置となるよう計画。
- 防災機能については、**平常時との使い分け**も想定し検討。

交流等機能

交通機能



防災機能

平常時と使い分け



等

出典

※1：沖縄県観光案内所HP / ※2：那覇空港旅客ターミナルビルHP / ※3：道路新産業開発機構「道の駅」リニューアルについて（令和4年3月） / ※4：太陽工業株式会社HP / ※5：第一交通産業株式会社HP1 / ※6：てだこ浦西駅パークアンドライド駐車場HP / ※7：読谷村漁業協同組合HP / ※8：株式会社プロトソリューションHP / ※9：沖縄総合事務局「早期成果実現課題に対する取り組みの概要」（令和元年9月9日） / ※10：那覇市「那覇市津波避難ビル～各階案内～」(平成31年3月) / ※11：沖縄総合事務局「令和6年11月豪雨 緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活動報告（11月10日）」 / ※12：名護市立名護小学校HP「備蓄倉庫」（令和3年2月18日） / ※13：国土交通省「第2回バス新宿管理運営に関する検討会」（令和7年3月21日）

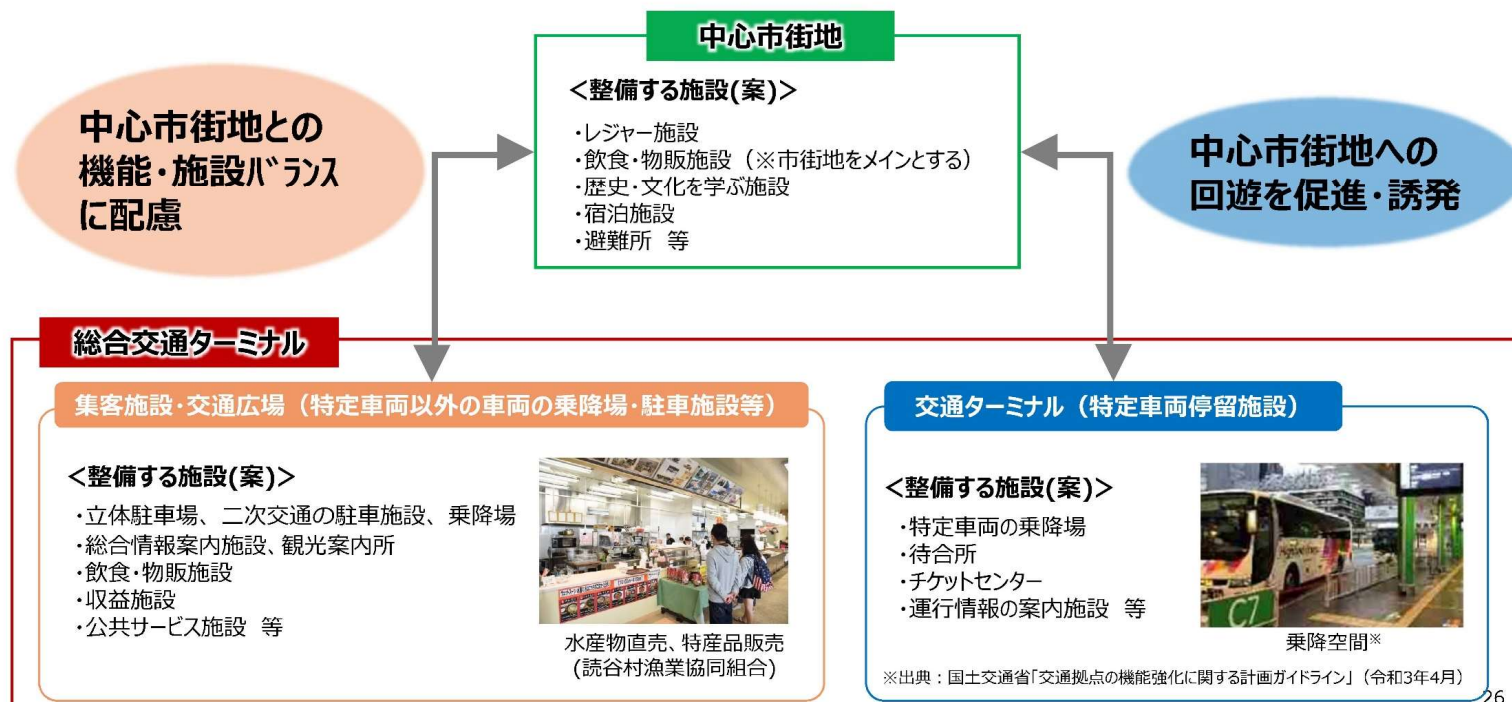
4.1 機能・施設（交流等機能：名護市中心市街地まちづくり推進協議会における検討内容）

- 中心市街地への回遊促進のため、**玄関口である総合交通ターミナルと中心市街地に、交流等に関わる機能をバランスよく配置**することを計画。

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

■ 名護市中心市街地まちづくりにおける総合交通ターミナルの役割

- 総合交通ターミナルは交通ターミナル（特定車両停留施設）と集客施設・交通広場によって構成され、バス等の公共交通機能は交通ターミナルに、一般の送迎車両等の受入れ機能、浸水時の避難場所等の防災機能、交流等機能は集客施設・交通広場に整備することが想定される。
- 総合交通ターミナルを玄関口として、中心市街地への回遊を促進させることが必要なため、総合交通ターミナルの集客施設にすべての機能を集約するのではなく、中心市街地と機能・施設をバランスよく配置することが求められる。



4.1 機能・施設（交流等機能：名護市中心市街地まちづくり推進協議会における検討内容）

- 総合交通ターミナルに整備する集客施設には、**情報発信機能、飲食・物販機能、公共サービス機能、防災機能**といった機能とそれに伴う施設の導入が検討中。

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

(2) 集客施設への導入機能（案）

- これまでの意見から、集客施設には情報発信機能、飲食・物販機能（漁港に関連したもの）、その他の収益機能、公共サービス機能、防災機能の導入が想定される。
- 中心市街地への回遊を促すため、宿泊施設や飲食・物販（漁港に関連しないもの）の機能は、中心市街地側への整備を想定する。

機能		施設一覧(案)
情報発信機能	情報案内	総合情報案内コーナー 事務所
	休憩	休憩・待合スペース 屋根付きデッキ トイレ・パウダーコーナー コインロッカー
	眺望・シンボル	名護湾・夕陽が見えるデッキ
飲食・物販機能	飲食	漁協直営食堂 水産物直売 特産品販売 フードコート BBQスペース、ビアガーデン
	物販	コンビニ 自販機コーナー
その他の収益施設	起業支援	キッチンラボ コワーキングスペース・交流ラウンジ
公共サービス機能	—	アーバンデザインセンター
	—	観光案内所
	交流	イベントスペース 多目的室 展示スペース（ギャラリー）
防災機能	防災	会議室等 災害時の情報提供施設 非常用発電機 緊急物資保管場所
その他		歩行者通路等

施設規模の考え方

- 総合交通ターミナル・集客施設の利用者約4,602人/日※のうち、2割程度の約900人/日程度が集客施設を利用することを想定
- 沖縄県内の道の駅や全国の交通結節点の施設規模を参考に各施設の規模を設定

※名護市総合交通ターミナル整備基本計画（令和5年3月）における利用者数試算結果

▼水産物直売、特産品販売



出典：読谷村漁業協同組合HP

▼フードコート



道の駅「いとまん」

▼コワーキングスペース・交流ラウンジ



出典：道の駅「やんばるバイナッブルの丘安波」HP

▼観光案内所



出典：道の駅「ぎのぎ」HP

4. 区域・施設配置計画(案)

4.1 機能・施設（交流等機能・防災機能：津波避難施設 静岡県伊豆市『テラス オレンジ トイ』）

- 観光施設機能と防災機能が一体となった複合施設。
（平常時：レストランや売店を有する観光施設、災害時：利用者・市民が避難できる津波避難タワー）
- 湾に面した立地は名護市街地とも類似しており、こうした各地の事例も参考に、**防災・交流が一体となった整備のあり方を今後検討**する。

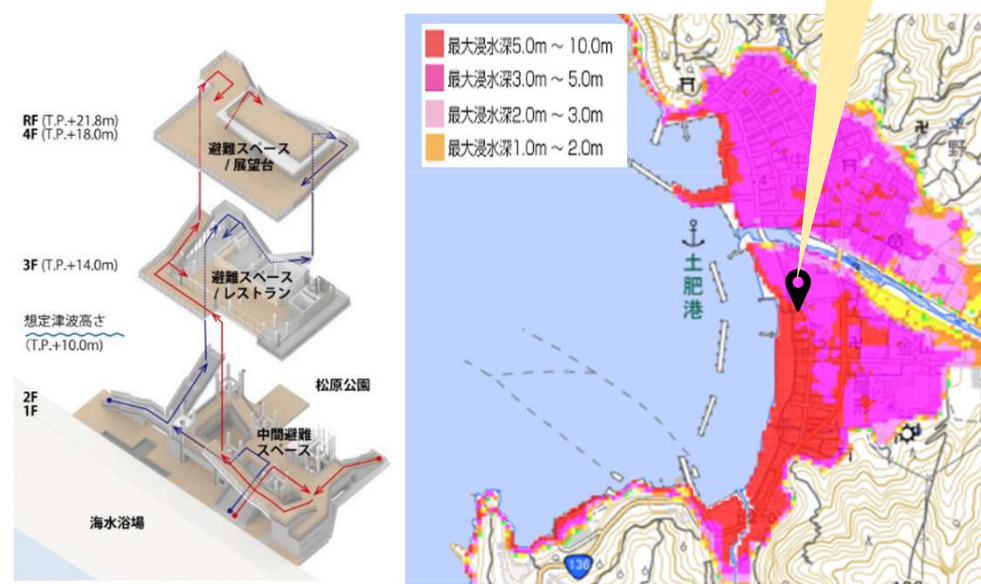
構造等	<ul style="list-style-type: none"> 鉄骨造、地上4階建て（地上18.8m） 避難スペースは3階以上（海拔14m以上） ※津波浸水想定高10m＋余裕高4m
機能等	避難面積約600㎡、想定避難者約1,200人 【災害時】 一時避難スペース、防災備蓄庫等 【平常時】 地域交流の場、物販、飲食の提供、観光情報等の発信
商業施設	4F（屋上）：BBQレストラン 3F：レストラン 2F：フリースペース 1F：地場産品直売所、カフェ



● 農林水産物等の物販



● 避難スペースを兼ねるレストラン

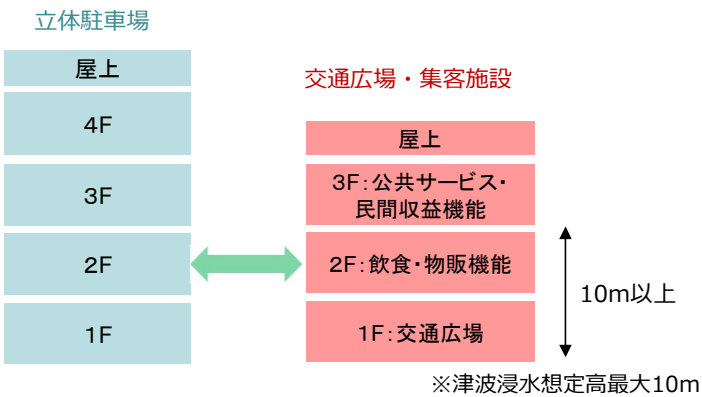


出典：伊豆市「伊豆市津波ハザードマップ」(R6.3.24)
静岡県GIS「第4次地震被害想定津波浸水津波浸水（レベル2重合せ図）」

4.1 機能・施設（交流等機能：施設規模について（名護市における検討状況））

- 集客施設は、**災害時の一時避難場所確保の観点から、4階建て（屋上含む）**とし、3，4階は、平常時・災害時いずれも利用可能な機能、施設を導入する計画。

▼交流等機能（集客施設）のイメージ
〈断面イメージ〉



＜平常時と災害時の機能想定（集客施設）＞

	平常時	災害時
屋上	BBQ、ビアガーデン等	一時避難場所、防災備蓄倉庫
3F	住民が利用する公共サービス機能、民間収益施設	一時避難場所、会議室、災害情報発信 等
2F	住民・観光客が利用する飲食・物販機能、情報発信機能等	－
1F	特定車両停留施設以外の車両が利用する交通広場	(水が引いた後) 災害対応車の駐車スペース

▼交流等機能（集客施設）のイメージ



画像：名護市作成

4.2 バス事業者意見の確認

- バス事業者との意見交換を実施し、ターミナル形状等に関するバス運行上の懸念点・要望を確認。
- 待機バスの確保や、国道沿いのバス数確保等の内容を計画に反映。**

＜区域・施設配置計画に関するバス事業者からの主なご意見＞

内容	計画案の見直し内容
<ul style="list-style-type: none"> 運行上の時間調整が可能な<u>待機バスを確保してほしい</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ターミナル区域内に複数台の待機バスを確保。
<ul style="list-style-type: none"> 起終点としての利用や長時間運行への対応も想定し、<u>乗務員の休憩ができる施設</u>が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ターミナル区域内に休憩施設の整備を検討。
<ul style="list-style-type: none"> 一定のバス停数を確保するためには、<u>ロータリー形状の方が、運用上適している</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3回検討部会で示した配置例②をベースに、市街地側にロータリーを確保した計画案を設計。
<ul style="list-style-type: none"> 高速バス停は観光バス（貸し切りバス）が利用する可能性も高い。<u>国道沿いの高速バスのバスは、構造上可能な限りスペースを取っていただきたい</u>。（一般車が停車してしまうことへの懸念もあり） 将来的に周辺市町村間を結ぶ路線バスが運行される可能性もあるため、<u>国道沿いにも路線バスが発着できると良い</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 国道沿いには、構造上、確保可能なバス数（片側4台程度）を配置できる長さに設計。 高速バスと路線バスのバス配分は今後の調整事項
<ul style="list-style-type: none"> 将来的にバス路線網がどのように再編されるか次第ではあるが、<u>国道からも市街地側のロータリーへ出入り</u>できると、時間削減につながる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地側のロータリーへ国道側から進入できる車路を追加。
<ul style="list-style-type: none"> 路線バスは定時性が確保できることがポイントである。出入口に関しては、<u>信号制御等によりできるだけバス交通が円滑に捌けるようにしてほしい</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁港側から信号制御で国道に出られる構造に設計。
<ul style="list-style-type: none"> 一部バス専用レーンにしてほしい。自転車レーンも交わっているのでそこも意識すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ハイグレードバス停でバスと一般車（駐停車車両）を分離する構造的な工夫（例：構造物やカラー舗装等）を検討中。自転車通行帯は乗降場（交通島）背面を歩道沿いにし、バスバスとの錯綜を避ける設計とした。
<ul style="list-style-type: none"> 今後、電気自動車への対応（充電施設）や連節バス等も考慮した計画であればなお良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 連節バスは、ハイグレードバス停のバスバス利用を想定中。他、具体的な条件等を踏まえて計画案を検討していく。

▼バス事業者との意見交換の様子

実施日：令和7年4月30日

参加事業者：

琉球バス交通、那覇バス、沖縄バス、東陽バス



4. 区域・施設配置計画(案)

4.3 配置案の具体化

- 配置例②の方が、**交通施設と交通ターミナルの集約配置による「まちづくりとの一体性」**の観点で優位。
- 国道移設規模が大きくなり事業期間が長くなるものの、**十分なバス待機スペースの確保により交通結節機能の最大化が図られる点を評価。**

配置イメージ

配置例①：交通機能を両側に概ね均等に配置



図：第3回名護市総合交通ターミナル検討部会より再掲

配置例②：交通機能を市街地側メインに配置



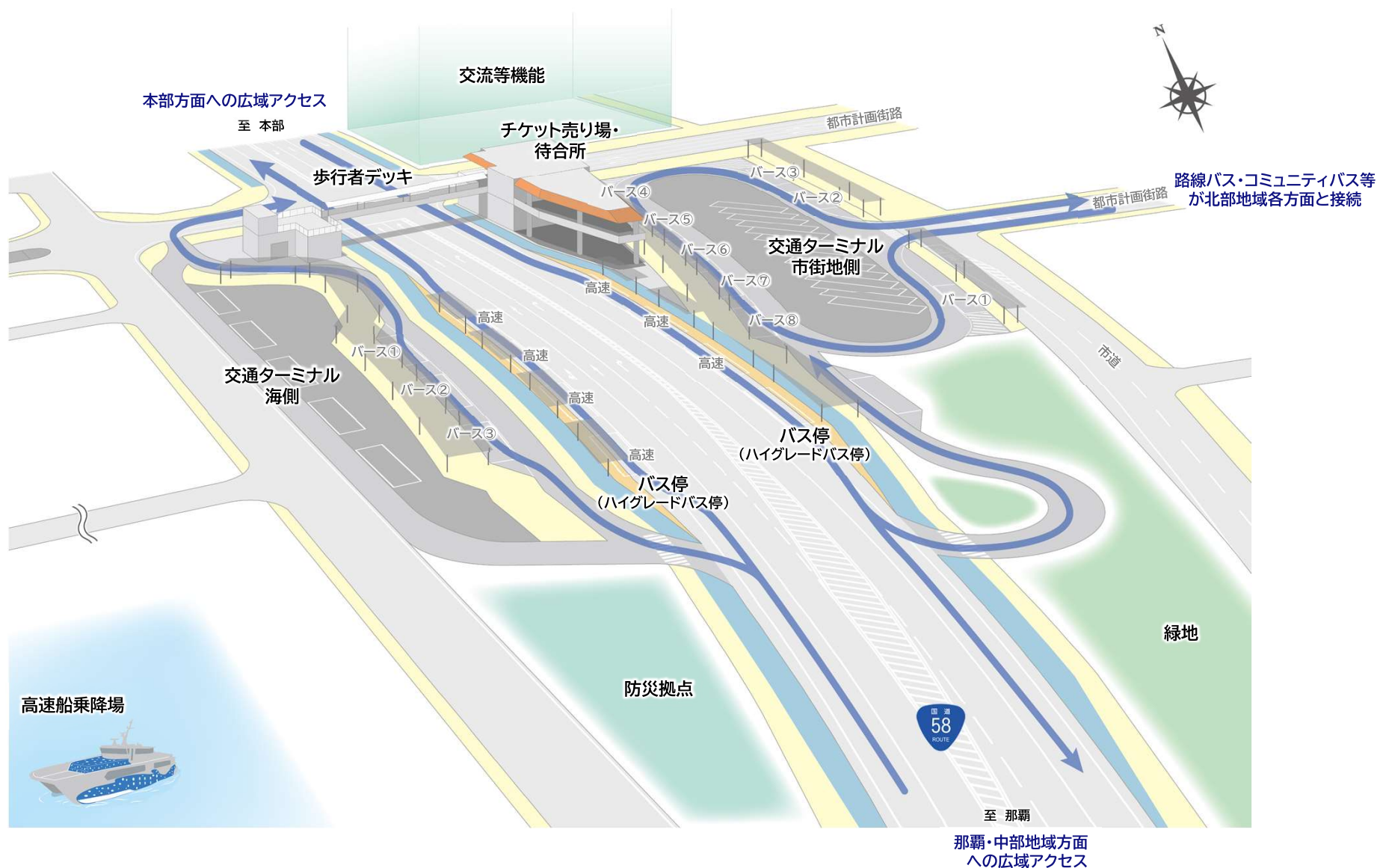
図：第3回名護市総合交通ターミナル検討部会より再掲

交通機能	交通円滑性	<ul style="list-style-type: none"> ▲停留所が分散するため、市街地へのアクセス性が配置例②に劣る。 ○高速船から観光送迎バス等、海側での結節性は配置例②よりも高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地側に停留所を多く配置でき、円滑な市街地アクセスを実現。 ▲海側の交通機能の規模が小さく、高速船からの乗継ぎがやや不便。
	利用者、交通事業者の利便性	<ul style="list-style-type: none"> ▲待機バスの規模が小さく、バスタを起終点とした運用や、貸切バス・シャトルバス等の受け入れへの対応が困難。 ▲チケット売り場・待合所が市街地から離れた海側の配置となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○待機バスを広く確保でき、バスタを起終点とする運用や貸切バス等の増発といった新たな運行形態に柔軟に対応可能。 ○チケット売り場・待合所を市街地側に確保し、効率的な利用者動線を実現。
防災機能	一時避難	<ul style="list-style-type: none"> ○海側に施設が整備され、漁港関係者等の一時避難が容易。 ○施設が分散配置されており、災害発生時に施設避難が分散できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲漁港関係者や海側施設利用者の一時避難に時間がかかる可能性あり。 ▲施設が集中しており、災害発生時に避難が集中する可能性がある。
	災害支援拠点	<ul style="list-style-type: none"> ▲災害対応車両の駐車スペースが市街地側・海側に分散。 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害対応車両等をまとまったスペースに配置可能。
交流等機能	まちづくりとの一体性	<ul style="list-style-type: none"> ▲集客施設のための敷地が細長い形状となり、まちづくりとの一体性に劣る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流施設と交通ターミナルの集約配置が可能で、まちづくりと一体となった拠点が形成できる。
	緑地のある空間形成	<ul style="list-style-type: none"> ▲市街地・国道間の公共空間に確保できる緑地が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地・国道の間に緑地を含む公共空間を充実させることで、市街地のゆとりある生活空間を実現。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ー 配置例②と比較して、事業期間は短い。 	<ul style="list-style-type: none"> ー 国道移設規模が大きく、調整・準備に時間を要する。
評価(事務局案)		<ul style="list-style-type: none"> ▲まちづくりとの一体性の観点で配置例②に劣る 	<ul style="list-style-type: none"> ◎まちづくりとの一体性の観点で優位であり、交通結節機能の最大化に期待

4.3 配置案の具体化

- 関係者の意見も踏まえ、**交通機能を市街地側に広く配置**する計画案とした。

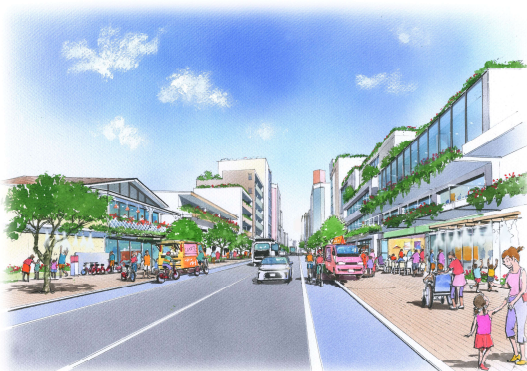
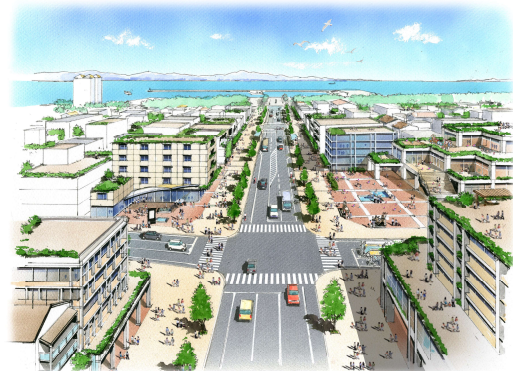
▼施設配置のイメージ



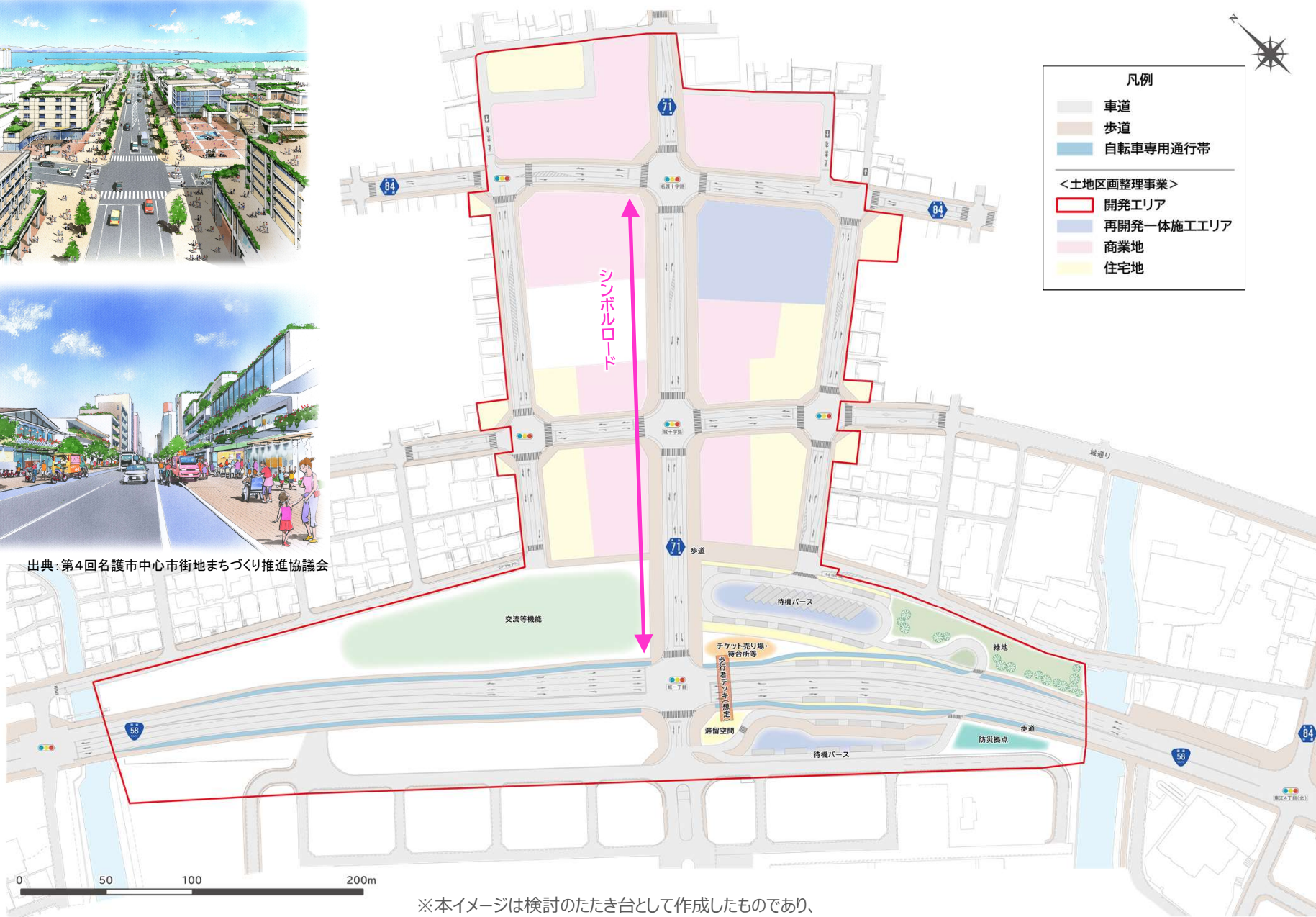
※本イメージは検討のたたき台として作成したものであり、
具体的な施設の規模や位置等の詳細については、引き続き、多くの皆様より幅広くご意見を伺い、検討を進めてまいります。

4.3 配置案の具体化

▼シンボルロードのイメージ



出典：第4回名護市中心市街地まちづくり推進協議会



※本イメージは検討のたたき台として作成したものであり、具体的な施設の規模や位置等の詳細については、引き続き、多くの皆様より幅広くご意見を伺い、検討を進めてまいります。

4.4 区域・施設配置計画に向けての留意事項

- 区域・施設配置計画については、**事業者意見や関連計画、周辺環境変化等に応じて、引き続き検討を進める。**

- ① **交通事業者との意見交換**を継続的に実施し、バス運用の目線から使いやすいターミナル設計としていく。
- ② **ジャングリアの開業（R7.7.25）**に伴う交通状況の変化や、市街地⇄ジャングリア間のシャトルバスの運行状況も踏まえて、総合交通ターミナルに求められる機能や施設規模を再整理。
- ③ 中心市街地における**土地区画整理事業や複合施設**の開発に伴う影響も踏まえ、ターミナル周辺の交通処理を確認。
- ④ 総合交通ターミナルに併設する集客施設の計画具体化に併せ、**一体的な空間デザインの在り方**を検討。

引き続き、関係者協議により施設配置の検討を行い、計画案のさらなる深度化を図る。



出典：第4回名護市中心市街地まちづくり推進協議会資料



画像提供：株式会社ジャパンエンターテイメント

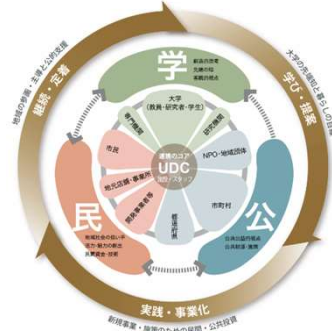
4. 区域・施設配置計画(案) ※参考資料 交流等機能:アーバンデザインセンターの事例

- バスやシンボルロードが一体となって持続可能なまちづくりに貢献する上で、そのマネジメント機能を担う
アーバンデザインセンターについて今後検討。

■ 概要

アーバンデザインセンター (UDC)

- 複合化した地域の課題に対して、公・民・学のそれぞれの立場で活動する様々な個人や組織が、様々な場面で臨機応変につながり、協働して解決に取り組むコラボレーションを進めるためのプラットフォーム。
- 行政都市計画や市民まちづくりの枠組みを超え、地域に係る各主体が連携し、都市デザインの専門家が客観的な立場から携わる新たな形のまちづくり組織や拠点として、2025年1月現在までに、全国28拠点（うち2拠点は活動終了）に展開。



出典：柏の葉アーバンデザインセンター「柏の葉アーバンデザインセンターの概要と活動」

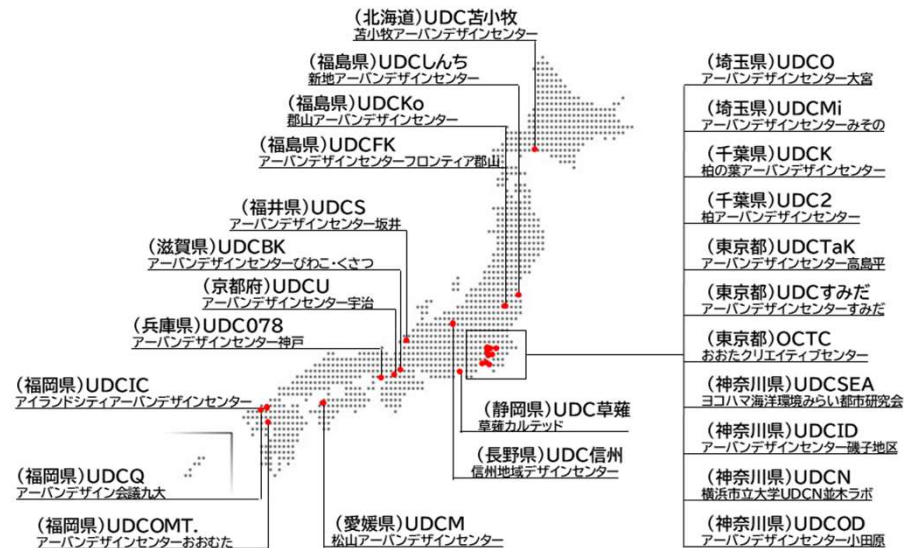


図4.2 全国のUDCマップ

出典：UDCイニシアチブ「全国のUDC」(R7.1)をもとに作成

● 交流スペース

アーバンデザインセンターみその



柏の葉アーバンデザインセンター



信州地域デザインセンター



アーバンデザインセンターびわこ・くさつ



● 作業スペース

おおたクリエイティブタウンセンター



アーバンデザインセンター宇治



● 展示スペース

郡山アーバンデザインセンター



アーバンデザインセンター大宮



出典：UDCイニシアチブ「全国のUDC」(R6.1)

4. 区域・施設配置計画(案)※参考資料 交流等機能:アーバンデザインセンターの事例

- 呉駅交通ターミナル事業（呉バス）においては、交通ターミナルを起点とした交通まちづくりや、次世代モビリティ、災害記憶の継承等、多様な役割を担う拠点としてアーバンデザインセンターが計画されている。

- まちの未来を描き実践していくアーバンデザインセンター（UDC）を一体的な空間として活用し、休憩機能や情報発信機能を配置、周辺開発等と連携した待合空間を創出します。
- 飲食物販等機能については、隣接する複合施設等において、その機能を確保します。

機能	施設詳細
バスターミナル機能	待合室
	運行管理室・事務室
	職員用更衣室等
	乗車券販売窓口
基本利便機能	情報発信(デジタルサイネージ)
	コインロッカー
	テレワークスペース
	自動販売機
飲食物販等機能	飲食店等

※ バスターミナル機能、基本利便機能の面積:約300㎡
 ※ 飲食物販等機能、トイレ・パウダーコーナー等は、複合施設内の機能を共用（デッキ等を活用した小規模な出店も想定）

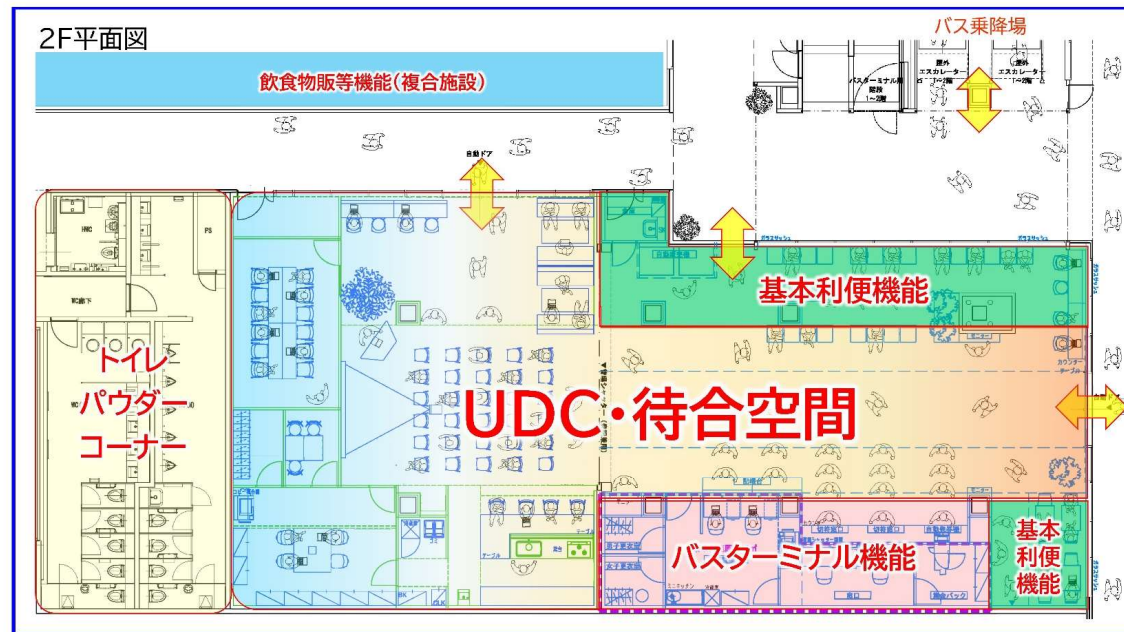
アーバンデザインセンター（UDC）

- 地域社会に必要な公的サービスを担う「公共」、市民活動や経済活動を通じて地域の魅力と活力の向上を担う「民間」、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「大学」が日常的・多面的に連携し、まちの未来を描き実践していくエンジンとなるもの
- デッキの先進的な使い方や駅を起点とした交通・復興まちづくりなど、多方面で整備後の呉駅交通ターミナルに関わっていく。

呉駅周辺地域のエリアデザイン

次世代モビリティ導入に向けた社会実験

平成30年7月豪雨災害の記憶継承



※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

7

5. 名護市総合交通ターミナル整備方針(案)

5. 名護市総合交通ターミナル整備方針(案)

5.1 名護市総合交通ターミナル整備方針 (案)

- 北部地域・名護漁港周辺のポテンシャル・課題に基づき、総合交通ターミナルの整備方針(案)を取りまとめ。
- 「暮らす人・訪れる人、誰もが利用しやすく居心地の良い新たなやんばるの玄関口となる臨海部のバスタ」の実現を目指す。

ポテンシャル

【北部地域】

- ◆ 北部地域の中心都市
- ◆ 道路交通の移動需要が増加
- ◆ 豊富な自然・文化的資源
- ◆ 観光・経済・医療の集積、更なる発展

【名護漁港周辺】

- ◆ 広域的な交通軸のクロスポイント
- ◆ 防災上重要な道路との近接性
- ◆ まちづくりと連動した中心市街地の玄関口



課題

- ◆ 北部地域における公共交通（バス・タクシー等）の利便性の課題
- ◆ 国道58号を含む周辺道路の安全性・円滑性の課題
- ◆ 自家用車への依存
- ◆ 中心市街地の活力低下
- ◆ 防災機能強化の必要性



暮らす人・訪れる人、誰もが利用しやすく居心地の良い新たなやんばるの玄関口となる臨海部のバスタ



①円滑で快適な市街地アクセス・公共交通利用の実現

②周辺道路の安全性・円滑性の確保

③自家用車からの利用転換

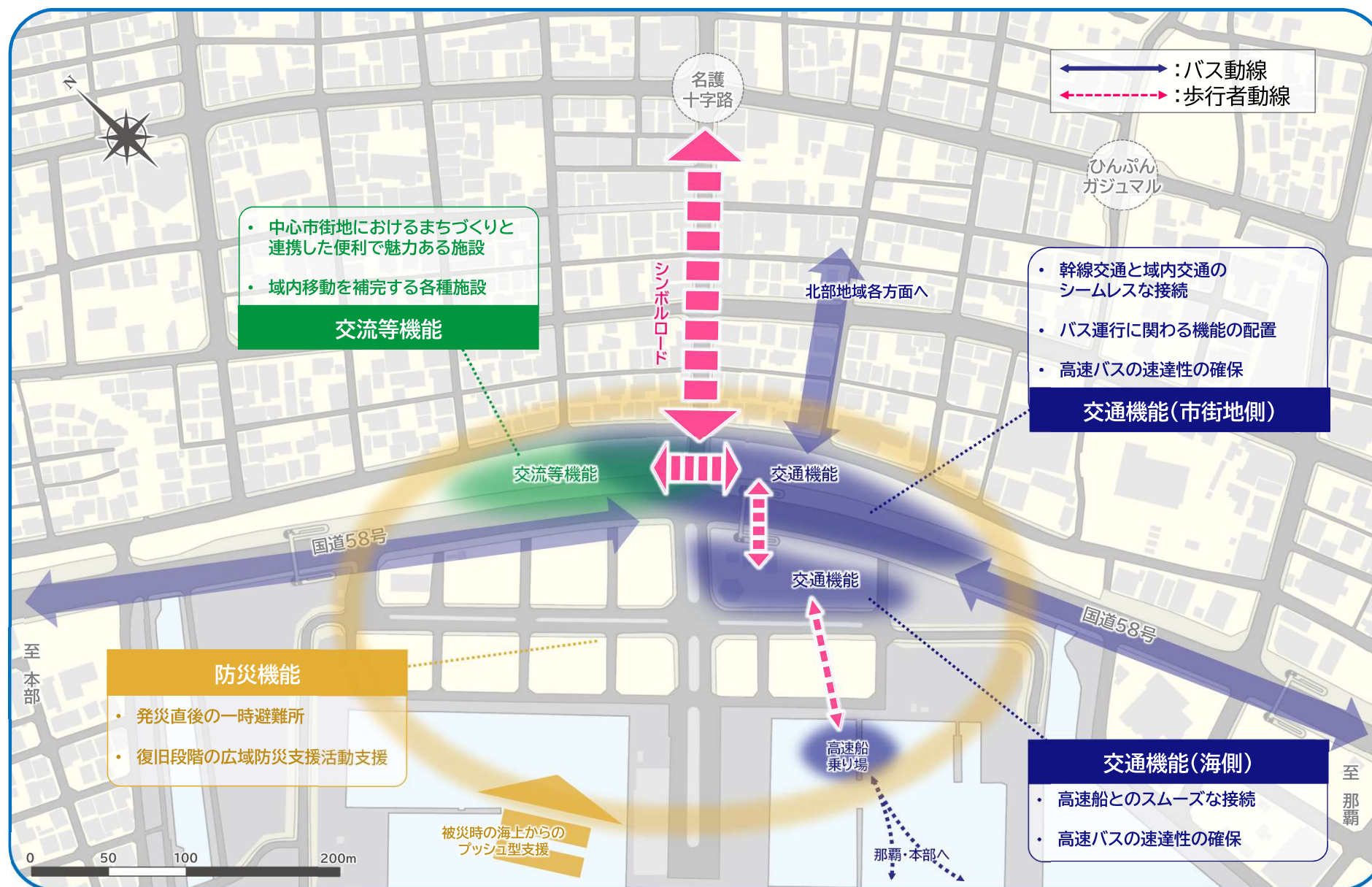
④回遊促進・賑わいの創出

⑤防災機能の強化

5. 名護市総合交通ターミナル整備方針(案)

5.1 名護市総合交通ターミナル整備方針 (案)

- ・ 国道58号に沿って交通機能・防災機能・交流等機能を配し、バリアフリーな歩行者動線で接続。
- ・ 中心市街地におけるまちづくりと連携し、**総合交通ターミナルに訪れた人々のまちなかへの回遊を促す。**



5. 名護市総合交通ターミナル整備方針(案)

5.1 名護市総合交通ターミナル整備方針 (案)

- 現在事業中・調査中の道路ネットワーク整備とあわせて、**みち・うみ・まちの近接性を生かした交通拠点整備**により、**高速バス・高速船による広域移動と、路線バス・各種二次交通による地域内移動が接続し、北部地域の回遊性向上を図る。**



6. 名護市総合交通ターミナル整備イメージ(案)

6. 名護市総合交通ターミナル整備イメージ(案)

第4回 名護市総合交通ターミナル検討部会

6.1 整備イメージ (案)

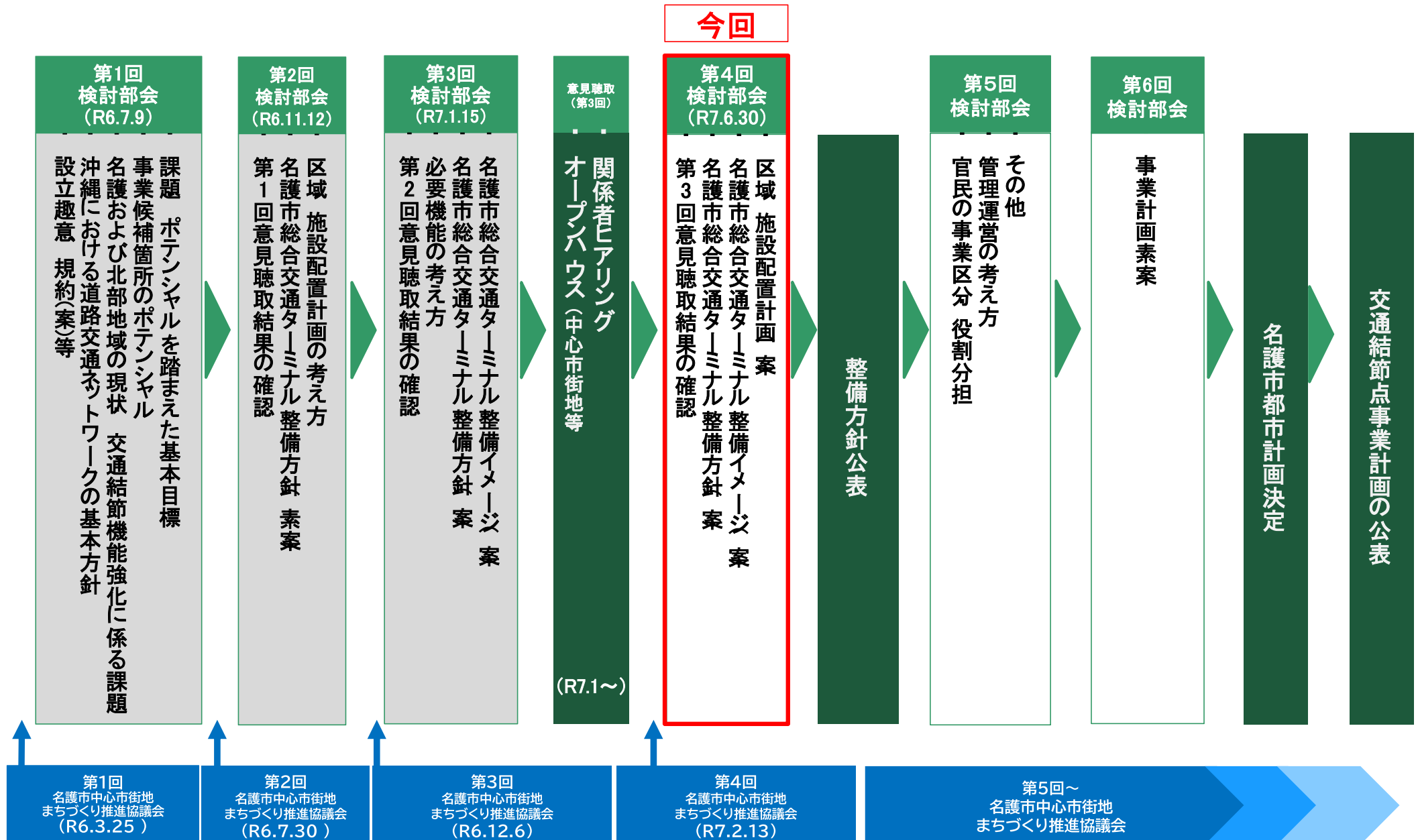


※本イメージは検討のたたき台として作成したものであり、具体的な施設の規模や位置等の詳細については、引き続き、多くの皆様より幅広くご意見を伺い、検討を進めてまいります。

7. 今後の進め方

7. 今後の進め方

7.1 今後の進め方



参考：名護市総合交通ターミナル検討部会の検討体制

名護市中心市街地まちづくり推進協議会

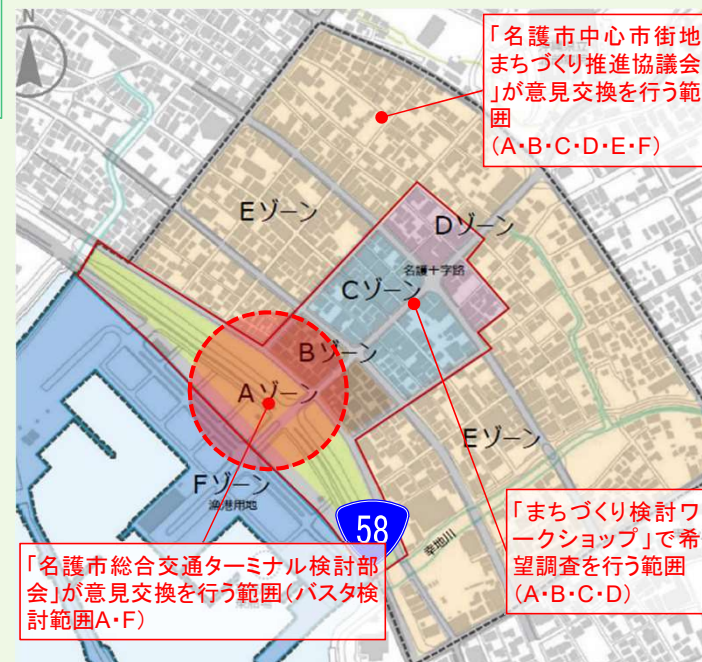
第1回 R6.3/25
第2回 R6.7/30
第3回 R6.12/6
第4回 R7.2/13

- 目的 名護市中心市街地のまちづくりや施設整備について、関係者とともに専門的・学術的見地から、幅広く意見交換を行うことを目的とする。
- 委員 有識者 神谷大介 教授(琉球大学)、島田勝也 特別研究員(沖縄大学)、伊良皆啓 上級准教授(名桜大学)
- 関係機関 内閣府沖縄総合事務局(運輸部企画室長、運輸部陸上交通課長、北部国道事務所副所長、開発建設部建設産業・地方整備課長)、沖縄県(土木建築部北部土木事務所技術総括、企画部交通政策課長、土木建築部都市計画・モノレール課長、北部農林水産振興センター所長)、名護警察署交通課長、沖縄振興開発金融公庫北部支店長、名護漁業協同組合代表理事、名護市観光協会理事長、名護市商工会会長、中心市街地関係各区(城、港、大中、大東)区長、名護十字路商店連合会会長
- 事務局 名護市

名護市総合交通ターミナル検討部会

第1回 R6.7/9
第2回 R6.11/12
第3回 R7.1/15
第4回 R7.6/30

- 目的 名護市の関連する上位計画等を踏まえ、「名護市総合交通ターミナル検討部会」を開催し、バスターミナルの整備方針を検討する。
- 委員 有識者 神谷大介 教授(琉球大学)、羽藤英二 教授(東京大学大学院)、林優子 副学長(名桜大学)、前田裕子 理事長(名護市観光協会)
- 交通関係者 (一社)沖縄県バス協会、(一社)沖縄県ハイヤー・タクシー協会、(一社)沖縄県レンタカー協会、交通事業者(9社)
- 行政 警察、沖縄総合事務局、沖縄県、名護市等の関係部局(計12名)
- 事務局 名護市、沖縄総合事務局北部国道事務所



まちづくり検討ワークショップ

第1回 R6.10/23
第2回 R6.11/27
第3回 R7.1/22

- 目的 まちづくりの将来像を検討。
- 構成 ①各行政区・各通り会 ②学生(大学・高校) ③観光関連

連携

連携

名護市地域公共交通協議会

- 目的 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律並びに道路運送法の規定に基づき、地域における需要に応じた住民の生活に必要な交通手段の確保その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するとともに、地域公共交通計画作成及び実施に関する協議を行うことを目的とする。
- 委員 学識経験者 神谷大介 教授(琉球大学)
- 交通関係者 (一社)沖縄県バス協会、(一社)沖縄県ハイヤー・タクシー協会、私鉄沖縄県労働組合連合会、交通事業者(5社)、住民等代表、第一マリンサービス(株)、公立大学法人名桜大学
- 行政 金城 副市長(名護市)、沖縄総合事務局、沖縄県、名護警察署
- 事務局 名護市

北部市町村連携交通会議

- 目的 北部圏域における公共交通の現状や課題を認識し、併せて、名護と那覇を結ぶ鉄軌道による骨格軸とフィーダー(支線)交通とが連携する利便性の高い公共交通ネットワークの構築に向けた公共交通の有機的連携による移動利便性の向上、交通の円滑化を図るため、沖縄県地域公共交通協議会の分科会として設置された。
- 委員 会長 沖縄県交通政策課公共交通推進室長
- 交通関係者 交通事業者(3社)
- オブザーバー 北部広域市町村圏事務組合
- 行政 名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村
- 事務局 沖縄県企画部交通政策課